



2024.9.16 マラソンシンポジウム 8時間連続ウェブ開催！！

「こんなはずじゃなかった介護保険」

～私たちのケア社会をつくる～



各地の
中継画面

えんの森での
パブリック
ビューイング
の様子



介護保険四半世紀を前に、「私たちが欲しい介護保険を語り合う機会を」と、高齢社会をよくする女性の会、ウィメンズアクションネットワーク、ケア社会をつくる会の3団体共催でシンポジウムを9月16日に開催しました。「改定編」、「現場編」「展望編」の三部構成、8時間連続という前代未聞のアクションでした。発言者は介護保険策定時の厚生官僚、社会学や財政学の研究者、介護事業者、介護職、介護家族、保険者である自治体首長と多彩な20余名。第三部の「展望編」モデレーターをえん代表小島が勤めました。暮らしネット・えんでもえんの森でパブリックビューイングを行ない、中継場所にもなり、熱気にあふれた1日になりました。

現在も YouTube 配信中です。

<https://www.youtube.com/live/BV-oumqwWWA>



介護保険にもっと税金の投入を

代表理事 小島美里

総理大臣が新しくなったら、あっという間に総選挙。議論してからのはずだったのに。それもあってか与党が過半数を割る大敗になりました。果たしてダイナミックに政治が変わるのでしょうか。

介護保険、特に訪問介護の危機は何度も伝えていますが、これも政治がずっと見て見ぬふりをしてきた結果といえます。わが暮らしネット・えんもスタッフの高齢化が進んで、特に訪問介護は70代が50代に次いで多い高齢職場になりました。定着率が良く勤続10年以上のベテラン職員が多いことは胸を張れますが、最近若手の入職が少なく5年先、10年先を思うと頭を抱えてしまいます。

2003年、グループホームえん開設の時にはたくさんの応募があり、お断りしなければならぬほどでした。それから3年後、小規模多機能型介護(多機能ホームまどか)を立ち上げるときには応募がなくなったのです。介護保険が始まったとき、「これからは介護の時代」といわれたものでしたが、それからわずか数年のことです。要因は全産業に比べ月額6万円低い賃金。介護保険が始まった2000年の基本報酬から上がってないのです。それどころか、今年4月からは在宅介護のベースである訪問介護の報酬が下げられました。先日、時間当たりの単価を計算してみたら、昨年比マイナス2パーセント。史上最悪のスピードで在宅介護事業所が倒産しているのも当然でしょう。

それでも、少ないながら若い人が「介護の仕事がしたい」と入職してくれます。収入さえ他の職種と同等ならもっというはず。介護サービスを崩壊させないためには、まず給料を当たり前の額にすれば良い。そのためには介護報酬を上げなければならないのですが、介護保険料は全国平均6225円、これ以上上げられないところまで来ました。

それではどうすれば良いのか。介護保険収入のうち5割が介護保険料と利用料、5割が税から支出されています。この税負担の割合をまず1割上げることです。実は民主党政権時代、野党だった自民党は税負担分の5割を6割に、公明党は段階的に7割以上にまで上げると公約しています。この約束を守ってくれば、介護保険料やサービス利用料を上げなくても、介護報酬を引き上げられます。野党の時の公約を、与党に返り咲いて10年以上も無視を続けた結果がこの惨状なのです。介護保険払っても要介護になったときに介護サービスはない、という状況がすでに始まっているのです。これこそ「国家的詐欺」ではありませんか。一刻も早い決断を望みます。





マラソンシンポジウムに参加して



田邊薫(NPO 暮らしネット・えん理事)

リモートで日本中をつなぎ8時間に及び介護シンポジウムが開催された。全国各地でパブリックビューイングが行われ、暮らしネット・えんもその一つになった。会場には利用者や介護従事者、地域住民など20名以上の人が参加していた。

シンポジウムは、介護家族や介護に携わる専門職、ジャーナリストや研究者など約20人が「制度編」、「現場編」、「未来編」の3部に分かれて発言された。休憩も含めて8時間の長時間だったが、内容が濃く集中して聞くことができた。

特に印象に残ったことは3点。

1 点目。利用しにくい介護保険制度。介護されている家族の発言の中に、介護サービスが利用できなかったために、介護心中も考えたというショッキングな言葉があった。もっとシンプルで、使い勝手がよい制度でなければ、本人や介護者がサービスを求めている時に、必要なサービスが届かない。介護保険サービスは年を重ねるたびに複雑になり、利用要件が加わり、利用しにくくなっている。誰のために作られた制度なのか。使いやすく頼りになる制度に改めなければならない。

2点目はお金に関すること。年金生活で家計に余裕がない高齢者にとって、介護費用は切実な問題だ。介護保険料は値上がりの一途で、利用料も所得に応じて1割～3割になった。じわじわと負担が増えている。これでは介護サービスの利用を躊躇せざるを得ない。大きな財布を持つ国は小銭しか持たない国民のお金を当てにし過ぎず、国のお金の使い道を考えてほしい。

3点目は、介護保険を私ごととして考えること。いつか使うかもしれない介護サービスという考えではなく、私ごととして考えていかないといけない。そうでなければ、今回のテーマ「こんなはずじゃなかった」になっていく。介護職員のマンパワー不足の話題は何年も続き仕方ないこととして片付けられていないか。倒産する事業所も増えるばかりだ。介護に従事する人たちが誇りをもって働き続けられるような環境整備、地域の実情に応じきめ細かなサービスを提供している小規模事業所がつぶれないよう見守っていかなければならない。

介護保険制度についてもっと学び、国民的な議論にしていかないと先細りになるばかりだ。

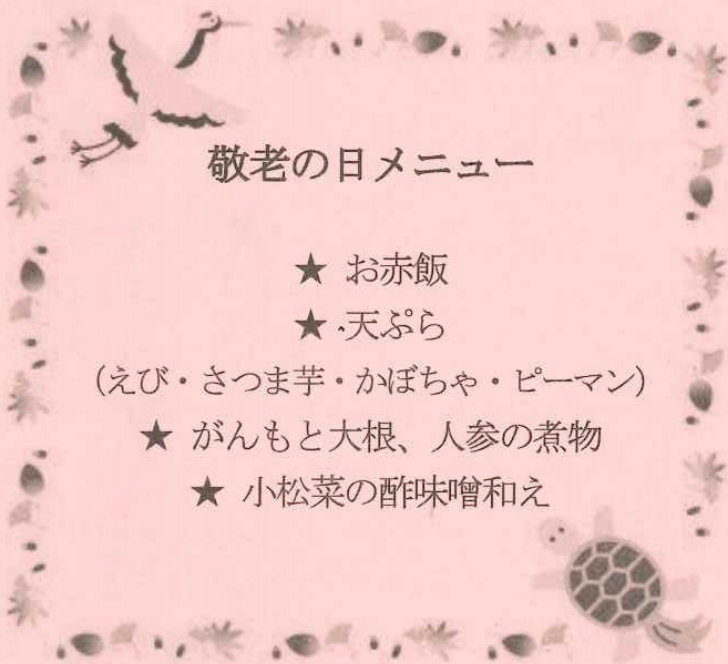


敬老の日「ハレの日」のメニュー



9月16日(月)の敬老の日、今年もお祝いメニューをご用意させていただきました。「お赤飯や天ぷらは、日本人にとって特別なハレの日メニュー。利用者の皆さんもすごく嬉しそうでしたよー」(デイホームスタッフより)。お弁当配達スタッフからも笑顔の報告がたくさん入りました。

材料費、光熱費が値上がりでえんの食卓でも厳しい状況が続いています。スタッフがスーパーの安売り広告を見て家族と並んで買うことも。また、9月に入ってから酷暑が続く、調理にも配達にも細心の注意を払っています。皆さまに笑顔、栄養、安心をお届けできるようにスタッフ一同これからも頑張ります。



敬老の日メニュー

★ お赤飯

★ 天ぷら

(えび・さつま芋・かぼちゃ・ピーマン)

★ がんもと大根、人参の煮物

★ 小松菜の酢味噌和え



チーリンの抜群の
えんの食卓!





①

「豚汁おいしい
ね！ おかわり
もらえるの？」



まどか 秋祭り

を開催しました！



②

9月25日、まどかの利用者さんが「グループリビングえんの森」に大移動。えんの森にお住まいの方と交流しながらの秋祭りとなりました。



③



⑤



調理に腕をふるって
くださったボランティア
の皆さん（前列のお
三方）。いつもありがと
うございます。

④




ボランティアさんが用意してくれ
た焼きそば、ポテトサラダ、豚汁で
腹ごしらえ(①②)。「転がしゲーム」
や歌(③④)を楽しんだあとは、く
じ引きでそれぞれに景品をゲット
されました(⑤⑥⑦)。



⑦



⑥



新座市相談支援従事者初任者研修を主催して


新座市基幹相談支援センターえん／安田実子

えん主催の相談支援従事者初任者研修、3回目の研修を無事終わりました。

法定研修の主催はえんにとって初めての挑戦であり、「相談支援専門員」の資格を交付する立場としてこれまで経験したことのない責任の重さを感じる期間でした。研修開催にあたり埼玉県と相談を重ね、新座市からの後援、新座市地域自立支援協議会、新座市基幹相談支援センター、市内相談支援事業所の多大な協力のもと、3年間で合計35名の相談支援専門員の誕生に貢献できました。

この研修は、福祉の分野で定められた期間、知識と経験を積んできた人たちに受講資格があります。法定研修であり決められた時間とカリキュラムはもちろん、プラスしてこれまでの自分自身が重ねてきたことを振り返り、これからの福祉との向き合い方を改めて考える機会となるよう、研修を組み立てました。開催側にとっても貴重な学びの時間であったことは間違いなく、今後も新座市の相談支援専門員全員がお互いに学び合いながら業務を行える環境を作っていきたいと考えています。


—初任者研修を受講して—



えんの訪問ヘルパーとして、利用者さんの気持ちに寄り添い日常生活を直接支えている一方で、相談支援専門員初任者研修では、たくさんのことを学びました。中でも、利用者さんの意思を尊重しつつ、社会資源や地域資源を活用し、総合的な視点が求められることや、多職種連携の重要性が心に残っています。それには、幅広い視野が必要で日々の経験と学びの積み重ねが大切だと実感しています。ヘルパー・相談支援専門員どちらの視点も大事にしながら利用者さんと接していきたいです。

ケアサポートえん／ケアプランえん相談支援兼務／石田法子

今年、ケアマネ6年目に初任者研修を受ける機会を頂きました。介護保険サービスと比べ、利用者の年齢層(児童～高齢)は幅広く、障害の種類も多様で、教育や就労といった多くのニーズに応えながら社会生活に必要なサービス提供を行います。より強い地域社会とのつながりが大切だと感じました。法人の理念でもある「高齢になっても障害をもっても共にこの街で暮らし続けるために」、私達ケアマネや相談支援専門員の役割の大きさを強く感じた研修になりました。



ケアプランえん／川村はるみ

書籍のご案内

マンガ 認知症【施設介護編】

ニコ・ニコルソン
佐藤眞一／小島美里

定価 1034円 (10%税込)



大好きな祖母が認知症になってしまい、母と二人で介護に取り組むマンガ家、ニコ。在宅介護が限界を迎えて施設に入居してもらったものの、祖母の認知症の症状がみるみる悪化していきました。ふたりはしょっちゅう呼び出され、かかる費用は月40万円……!? じつは、認知症の人には「向かない施設」があるんです。「この行動は本人からのSOS?」「職員さんとどう話せばいいの!？」介護事業を立ち上げて30年のコジマさんと認知症の心理学の専門家・サトー先生が、認知症の施設介護の不安を解きほぐします。

2月に出版記念イベント開催予定! 乞うご期待!!

小島美里 著 NPO 法人 暮らしネット・えん 代表理事



訪問介護の基本報酬減額、これは在宅介護終わりの始まりです。有効求人倍率 15.5 倍、介護職の中でも断トツの高齢化を誇り、赤字事業所が4割弱の訪問介護にトドメを刺す仕打ちです。地域を回るヘルパーは絶滅の危機にあります。ヘルパーがいなくなれば介護離職か、要介護の親を放置するか、選択を迫られます。制度は持続しても高齢者の生活は崩壊します。多くの方にこの「在宅介護のかなめ」訪問介護の惨状をご理解いただき一緒に声をあげて上げていただきたいのです。

A5判 36ページ 300円

送料: 1~5冊 180円
6~9冊 370円
10冊以上 無料

注文申込 NPO 法人 暮らしネット・えん

Tel 048-480-4150 Fax 048-201-1311

Mail: npoenn@jcom.home.ne.jp

第21回 暮らしネット・えん **みんなのコンサート**

ロバの音楽を聴くと
あたたかい夢がやって来る



同時開催！！

アートする
しあわせ
～みんなで作品展～

場所 新座市立中央公民館ロビー
開催時間 10時～17時(入場無料)

主な曲目：ガランピーダンス、1+1=1、リングリガリン 他

ロバの音楽座は、中世・ルネサンス時代の古楽器やオリジナル空想楽器により、子どもも大人も楽しめる、心温まる「音と遊びの世界」を創造しているグループです

日時 **2025年1月12日(日)** 開場 **1:30** 開演 **2:00**～

場所 新座市立中央公民館 体育室

会費 大人 1500円 子ども(小・中学生) 700円 未就学児 無料

性別・年齢・障がいの有無に関係なく
みんなで楽しく遊んでみませんか？



12.8日

11:00-15:00

参加費：無料

毎年
12月3日～9日
障害者週間です



バルーンアートの
プレゼントもあるよ！

けん玉遊び ポッチャ体験会 コーヒー・焼き菓子・小物などの販売 焼き芋会

主催/問合せ:ごちゃませ実行委員会 090-2329-3952(代表・高橋)

協力:NPO 法人暮らしネット・えん 新座市基幹相談支援センターえん

NHK サービスセンターminds 新座市社会福祉協議会(生活支援体制整備事

地域で暮らし続けていくために **2024年度新規・継続会員募集中！**

正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

TEL:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:https://npoenn.com/